

平成30年度予算について

～豊かな大阪の実現に向けて～

平成30年3月

大阪市長 吉村 洋文

1. 平成30年度市政運営の基本方針

豊かな大阪をめざした政策推進

新たな価値を生み出す市政改革

新たな自治の仕組みの構築

2. 平成30年度予算の姿

予算編成の原則

補てん財源に依存することなく収入の範囲内で予算を組むことを原則とするなど、将来世代に負担を先送りすることのないよう財政健全化への取組みを進めるとともに、限られた財源のもとでの一層の選択と集中を全市的に進める

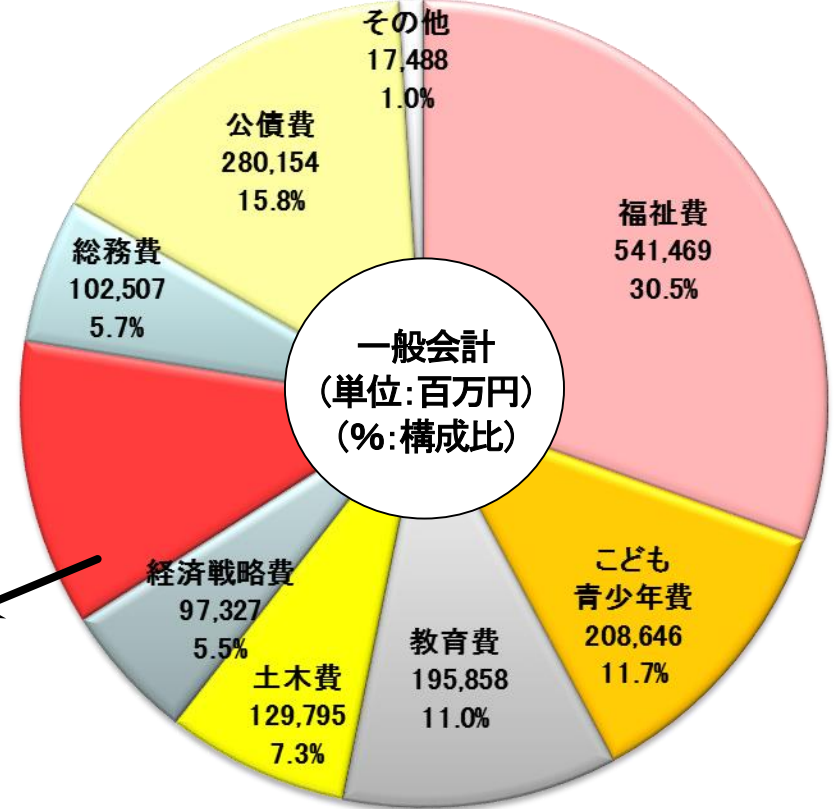
予算の概要

平成30年度当初予算

- 予算総額: 3兆8,985億円
(対前年度比 +1.7% +645億円)
- うち一般会計: 1兆7,771億円
(対前年度比 +0.8% +145億円)

内 訳	予算額	構成比
健康費	50,126	2.8%
住宅費	44,224	2.5%
消防費	36,852	2.1%
環境費	34,317	1.9%
港湾費	18,347	1.0%
大学費	17,184	1.0%
議会費	2,832	0.2%

目的別歳出予算



平成30年度予算の姿

豊かな大阪をめざした政策推進

■ 市民サービスの拡充

- ・ 子育て・教育環境の充実
- ・ 暮らしを守る福祉等の向上
- ・ 各区の特色ある施策の展開

■ 府市一体となった成長の実現

- ・ 大阪の成長戦略の実行
- ・ 都市インフラの充実
- ・ 防災力の強化
- ・ 成長産業の育成

新たな価値を生み出す市政改革

■ 質の高い行財政運営の推進

■ ICTの徹底活用

■ 官民連携の推進

■ ニア・イズ・ベターのさらなる徹底

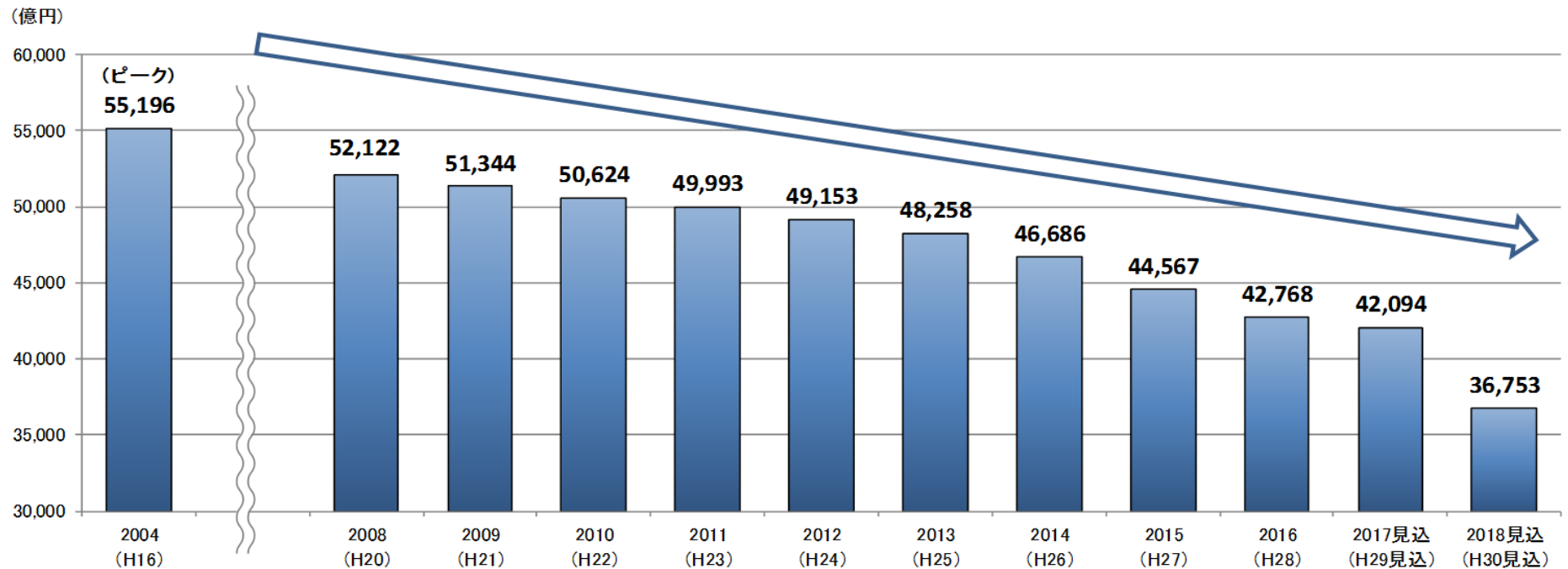
■ 府市連携・一元化の推進

財政健全化を着実に推進

市債残高の着実な縮減などに取り組むとともに
通常収支の状況を踏まえた予算を編成
[通常収支の状況 △190億円の不足]

将来にわたり活気ある豊かな大阪をめざす

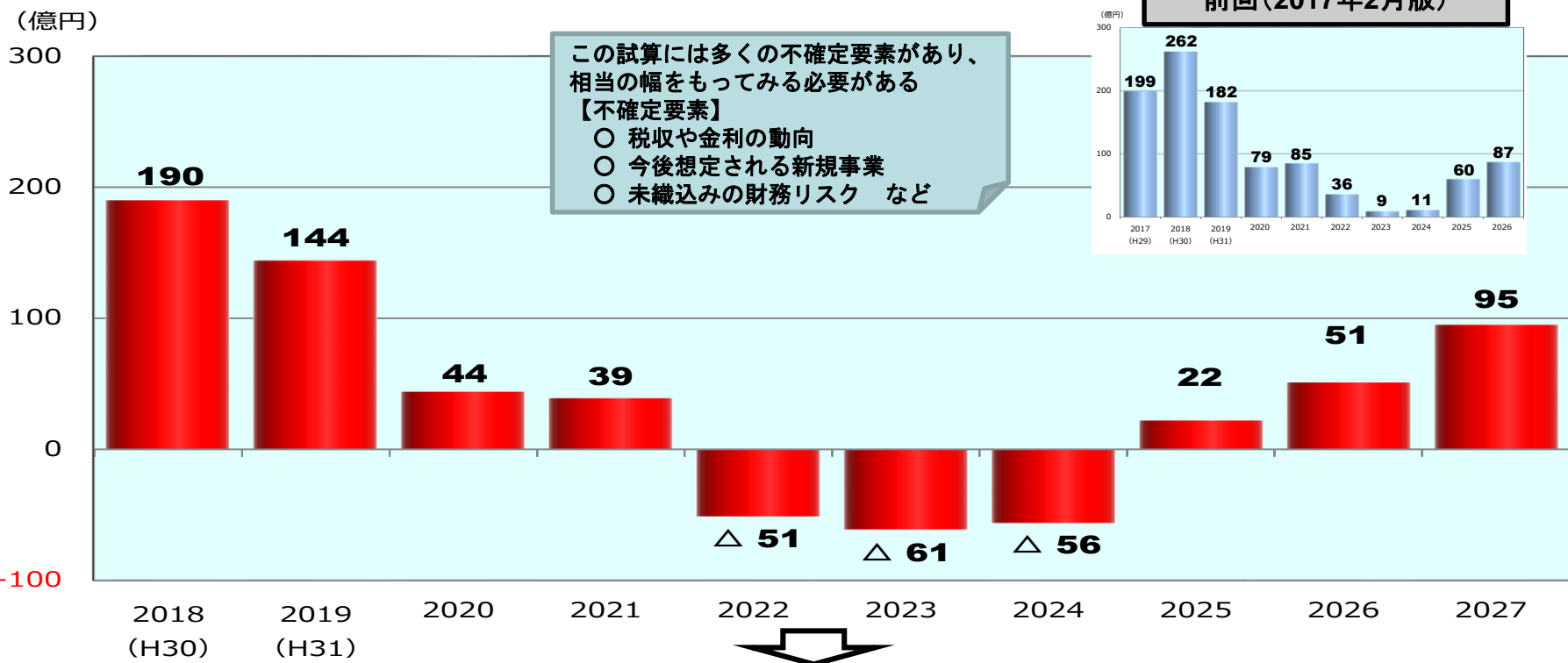
平成30年度予算の姿（市債残高の推移）



➤ 全会計ベースは14年連続して対前年度比較で減

(※ 一般会計ベースも、後年度に地方交付税で全額措置される臨時財政対策債を除くと14年連続して対前年度比較で減)

今後の財政収支概算（粗い試算） ※通常収支（収支不足）の状況とその対応



○ 通常収支（単年度）の均衡に向けて引き続き市政改革に取り組むとともに、全市的な優先順位付けを行うなど、事業の選択と集中を進めることで、補てん財源に依存せず、収入の範囲内で予算を組むことをめざし、持続可能な財政構造の構築を図る必要がある

<参考>「粗い試算」に盛り込んだ将来負担への対応例

H29補正

将来の教育環境改善や学校再編に備え財源を確保

教育環境を取り巻く喫緊の課題

- 児童・生徒の急増に伴う教育環境改善
- 生野区西部地域の学校再編の推進
- 老朽校舎維持補修経費の増大

➔ 対策が急務であるとともに
安定的かつ着実な事業実施が必要

一方で、

財政的 課題

当面、通常収支不足が見込まれる中、
多額の事業費が必要(国庫補助が十分に確保できない) ⇒ 教育振興基金の枯渇

将来の教育環境改善と通常収支不足の圧縮に向け、

対応

29年度の収支状況に鑑み、今後必要となる財源の一部(約146億円)を
教育振興基金に確保するとともに、今後さらに充実を検討

